第93号／ふじのくに静岡県

消防学校ニュース

平成30年11月も大忙し!!…の巻

平成31年2月15日発行

※写真紹介　【左】11 月 15 日 警防科の訓練の一場面（円内はドローン）　【中】11 月 22 日 県東部への出張帰りでの富士山（富士市付近）
【右】11 月 23 日 清水区内で撮影した〇〇のような不思議な雲

台湾新北市・内政部消防署視察団がやって来た！

先発単独で訓練参加！

10月30日（火）、視察団のうち、新北市政府消防局の**寥**消防司令（平成30年4月にも単独で来校）が一足先に学校へ到着し、救助科第 35 期の土砂埋没救助・トレンチレスキューに参加しました。

視察団の来校を歓迎！

10月31日（水）、内政部消防署の **吳** 消防監と **許** 消防司令のお二人、新北市政府消防局の **張** 消防監、**謝** 消防司令長、**寥** 消防司令（前日のうちに合流）、**林** 消防司令、**程** 消防士長（通訳）、**呂**消防士長の6人、計8人の視察団が学校に到着しました。

澤野学校長が歓迎のあいさつをし、名刺交換、記念品交換等を行いました。視察団を代表して、内政部消防署の **吳** 消防監からお言葉をいただきました。

この日は、学校の食堂が休みだったため、“怖いもの知らず”で近くの台湾料理のお店にお連れしました。さて、視察団の感想は…

「台湾と変わらず“ **好吃（ハオチー）** ”」

内政部消防署
吳 消防監 と

新北市政府消防局
張 消防監 と

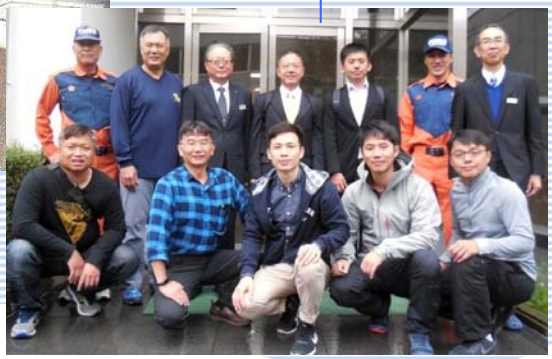
女性消防吏員講習を視察！

視察団の一行は、11 月1日、2日に実施した「女性消防吏員講習」の実科訓練を熱心に視察しました。特に初日のホットトレーニングは実際に体験してみたかったようです。

「日本消防の現況」についての勉強会（担当:酒井良憲教官）を実施しました。
意見交換（質疑応答）を行い、台湾と日本との相違点や類似点がよく分かりました。住宅用火災警報器の設置促進は台湾でも“悩みの種”だそうです。

学校内の施設案内では、「静岡県消防殉職者顕彰碑」についてもしっかりと説明。

11 月6日（火）朝、消防学校出発を間近に控えての記念写真。視察団はこの後、富士山世界遺産センターと消防防災航空隊を視察し、富士山静岡空港から台湾への帰途につきました。



『平成30年度 緊急消防援助隊 中部ブロック合同訓練』へ参加！

大規模地震の発生に備え、中部7県の緊急消防援助隊が技術及び連携活動能力の向上を図る「中部ブロック合同訓練」（主催:消防庁など）が 11 月4日（日）、5日（月）に実施され、5日は富士山静岡空港（メイン会場）における総合訓練として、指揮支援本部の運営訓練、各種救助訓練等が展開されました。

台湾からの視察団のうち、新北市政府消防局の皆さんは総合訓練に参加しました。

緊急消防援助隊用車両である、全国に1台（消防庁が岡崎市消防本部に配備）しかない全地形対応車両（レッドサラマンダー）が登場。新北市政府消防局の皆さんは当該車両に乗り込んでの訓練参加となりました。

「レッドサラマンダー」登場！

新北市政府消防局の皆さんを後部に乗せ、訓練現場へと向かう「レッドサラマンダー」

後部ユニットへ乗り込む新北市政府消防局の皆さん

会場内でも“注目の的”

「終了式」には、新北市政府消防局の皆さんも整列（円内）

← 内政部消防署のお二人は、訓練視察とともに、県関係者と意見・情報交換

消防職員特別教育

処置拡大追加講習（第4回）

平成30年11月5日（月）～11月8日（木）

新たな処置が加わり、その前段で高度な病態判断力が求められるようになっただけでなく、傷病者等への説明と同意、医師への伝達等、多岐にわたる活動能力が必要になっています。

救急救命士で平成２６年以前に国家資格を取得した者を対象とした追加講習も今年度で４回目。県内全16消防本部から９０人が参加して医師や指導救命士の指導の下、“血糖測定と低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与”と“心肺機能停止前の静脈路確保と輸液”に関する講義・シナリオ実習など、大変な４日間を過ごしました。

筆記及び実技試験には全員合格し、「講習修了証」が交付されました。

ご苦労様でした…

大活躍した実習用人形“セーブマン”は他の教育訓練や来期の使用に向け、念入りにメンテナンス

Two Chot

ツーチョット（チョイネタ）コーナー

小さなサポーターたちがまたまたやってきた！

近隣のこども園の園児たち（勝手に命名「ピンクの帽子隊」）がやってきた。今回は運よく消防車両に乗ることができたぞ！やったぁ！

富山	石川	福井	岐阜	愛知	三重	名古屋	静岡

消防学校における教育訓練や学校運営に関する有意義な会議を開催することができました。共通する悩みや課題は多いのです。

中部7県1市 消防学校長会議 本県開催!!

川嶋所長に御案内いただきました。どうもありがとうございました。

中部地区の消防学校長会議は、毎年春と秋に開催されるのですが、本年度秋季はここ静岡が開催地となり、11月８日（木）、９日（金）の日程で、初日は消防学校を会場に提出議題についての意見・情報交換、２日目は原子力防災センターと富士山静岡空港の視察を実施しました。開催県として、“静岡県ならではのおもてなし“を目指して頑張りました。

消防職員幹部教育

中級幹部科

県内 15 消防本部から 20 人の中堅幹部職員が入校

平成30年
11月7日(水)～
11月16日(金)
【8日間】

学校長「講話」

昭和女子大学大学院　山崎　洋史　教授
「指導技法」

LGBTしずおか研究会　主宰
細川　知子　氏　「LGBTについて」

「人事業務管理」面では、ハラスメント・コンプライアンス、女性の登用、うつ・大人の発達障害、多様な性のあり方、そして指導技法が学べる充実のラインナップとしました。

「現場指揮」では、現場指揮概論、大隊長指揮訓練、多数傷病者発生事故対応訓練、指揮隊運用、加えて「安全管理」を配し、指揮隊長としての責務と行動が習得できるカリキュラムとしました。

更には、静岡大学の牛山素行教授による“最近の豪雨災害から学ぶこと”など、理論的、実践的な講義・訓練の８日間でした。

頑張れ！大隊長～

大隊長指揮訓練

① 火災現場シミュレーション

火災通報後、現場指揮本部を設置して警防隊、救助隊、救急隊を指揮するとともに、本部とも連携しながら火災を鎮圧する。

② 本部との連携シミュレーション

大規模災害時における消防本部と消防団本部との連携訓練。災害情報を収集・整理・共有し、相互の消防力を考慮しながらどのように分担するかを指揮者として判断する。

中級幹部科生たちは、知識や経験を総動員して取り組み、多くの気づきを得たようです。

多数傷病者対応指揮訓練
（MCLSマネジメントコース）

事例研究

消防職員専科教育

警防科第13期

11月12日から11月28日までの実質12日間の日程による警防科第13期には、県内15消防本部から34人が入校しました。

県内外から各方面で活躍されている講師を招聘し、最先端の消火戦術から、それを支える安全技術の検証まで、座学や実科訓練による密度の濃い内容で実施されました。

近年、社会構造や生活環境の変化から災害の実態も変化しています。

それに伴い、警防業務に係る技術、機械器具及び設備も、時代の移り変わりとともに変遷を重ね、消防隊にも日々進歩が求められています。これらを踏まえ、この専科教育を通じて消防隊の置かれている現状や最新の動向を肌で感じ、学んだ内容を今後の業務に生かしてもらいたいと思います。

「惨事ストレスと対策」

過酷な災害現場に向かう消防職員にとって切っても切り離せない「惨事ストレス」、その定義から心理的反応、そして対策を学びました。

「警防行政の現状と課題」

現在の社会情勢を各種統計データや社会科学、人間科学など様々な角度から考察し、建物火災における今後の消防のあるべき姿を学びました。

火災対応実演

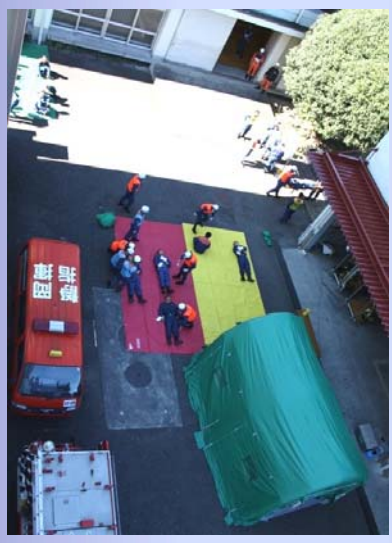
区画内火災での消火活動には常に危険が伴います。そのため、実火災体験訓練施設を使用した模擬火災の中で、環境測定やガスクーリング（パルス注水）など、屋内進入と消火のスキルを磨きました。

震災救助現場活動要領

座屈した建物を想定し、屋内に取り残された要救助者の救出訓練

浜松市消防局から浜北消防署救助隊を講師に招き、震災現場における初期活動としての「情報収集」や「安全管理」、検索活動要領を学びました。

多数傷病者対応



あるイベント会場で数十名を超える傷病者が発生したとの想定のもと、初動対応の確認やトリアージポスト及び応急救護所の設定などを実施しました。

ラグビーワールドカップや東京オリンピックなど、県内も会場となる大規模国際スポーツイベントの開催が迫っていることもあり、訓練に臨む姿は皆真剣そのものでした。

NBC災害対応訓練

校外研修として、浜松市消防局中消防署鴨江出張所へ出掛けました。

主にC災害（化学物質による特殊災害）について、午前は座学として特殊災害概論を、午後は初動対応訓練及び除染訓練を実施しました。

火災防禦のタイムライン

無線交信を取り入れた図上訓練及び評価訓練。

活動隊と火災防御のタイムラインを使った評価班に分かれ、活動班はシナリオに応じて火災防御や人命救助、延焼防止、警戒線の設定等を無線上の発話で実施。評価班はこれらを活動経緯のクロノロジー（時系列）を書き出し評価します。

中小隊長指揮訓練

複数隊による活動評価及び緊急事態への対応など、現場に則した活動能力が求められるため、緊迫した雰囲気の中での真剣な取組でした。

火災現場における実態把握、状況判断及び活動方針の決定による指揮活動要領を習得し、災害の推移を踏まえた指揮能力の向上及び他隊との連携を図ることを目的に、火災想定訓練を実施しました。

壁面貫通消火戦術!!

消火活動における消防士への安全性や消火効率の向上、水損などの環境被害の軽減を目的として、近年ヨーロッパで広まる{壁面貫通消火戦術}の基礎を学びました。

今回使用されたのは、スウェーデンにあるコールドカットシステムズ社製の「cobra」と呼ばれる装置で、壁面貫通のためのウォーターカッター機能とミスト消火機能を併せ持っています。

イギリスからトレーニングマネージャーとして活躍する現役消防隊員を講師に招き、実火災体験訓練施設による模擬火災において「cobra」を使用し、壁面貫通能力及び冷却・消火効果を考察しました。

併せて、シャッター、重量ブロック、自動車ドア等のデモ用ターゲット穿孔訓練を実施しました。

新規

消防職員特別教育

指令センター員講習（第1回）

近年、高齢化を背景に、救急出動件数は年々増加し、全国的に通信指令の役割の重要性について認識が高まっている中、いかにして救急業務を安定的に提供し、救命率の向上を図るかが消防組織としての課題の一つになっています。

本県においても、昨年の救急出動件数は前年と比べ7,000件（4.5%）増加、搬送人員は6,300人（4.3%）増加しており、この増加率は全国でも２番目に高い数値となっています。

このような現状も踏まえ、消防の窓口とも言える「通信指令員」の知識・技術の向上を図り、国民の生命・身体・財産を守るという消防活動全般のレベル向上を目的として、本校では全国に先駆けて、今年度から「指令センター員講習」を実施することとしました。

「講話」
（通信指令の重要性）

「指令員の役割と初動」

「接遇･クレーム対応」

指令センター員講習（カリキュラム）

月日（曜日）		1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時現	7時限
11月27日	火	オリエンテーション	指令員の役割と初動		事例研究		接遇･クレーム対応	
11月28日	水	通信コミュニケーション		照会 問い合わせ	医学教育		模擬訓練 （口頭指導･緊急度）	
11月29日	木	図上訓練			報道対応	講話		修了式

「報道対応」

大規模災害（地震）を想定した図上訓練

「チャレンジ！」と声を掛けるのは
容易いですが、新しいものを
一から組み立てるのは大変です…

今回の講習の企画・実施に当たっては、通信指令の普及と技術向上に関する活動をされている京都橘大学の北小屋 裕 助教に格別の御協力をいただきました。

講習期間は平成30年11月27日（火）から11月29日（木）までの３日間、教育時間数は21時間です。編成に苦慮した講習内容は、「接遇・クレーム対応」「通信コミュニケーション」「医学教育」「報道対応」などの座学とともに、口頭指導・緊急度判定を主体とした「模擬訓練」と大規模災害対応の「図上訓練」を盛り込みました。

県内消防本部から指令業務従事者12人（指令業務従事年数は１年から６年）が入校し、当講習を通じて、最先端の知識や技術を習得するとともに、各消防本部における現状や課題を共有し、通信指令の役割とその重要性を再確認しました。

口頭指導・緊急度判定を主体とした模擬訓練

「通信コミュニケーション」の講義を受けた後、模擬指令台を用いた模擬訓練を行いました。
普段とは違う状況での受付に“緊張”の雰囲気もありましたが、コミュニケーションを意識しながら、情報を収集し、的確に伝達する方法を再確認しました。

完全ブラインド方式での口頭指導シミュレーション

別室にて
モニタリング

現場特定を正確に行うとともに、通報内容に含まれるキーワードから傷病者の容態を把握します。
CPAと判断した際には、相手の動きが見えない状況で的確な口頭指導を行わなければなりません。
出動隊の決定、医療機関の選定など、通信指令員は短時間の中で多くの判断が求められます。

ビデオカメラでの映像をリアルタイムで見た後に、全員で振り返りを実施しました。

～知見を共にし、次へとつなぐ～『第2回通信指令シンポジウム』

前述の北小屋助教からの依頼を受け、「指令センター員講習」を担当した松尾 晋明 教官（教務課主査）が、平成 31 年２月 23 日（土）、帝京平成大学の池袋キャンパス（豊島区東池袋）で開催された『第２回通信指令シンポジウム』においてパネルディスカッション（「口頭指導訓練を含む通信指令員教育について」）に参加し、講習の成果や今後の課題等について発表しました。

発表を行う松尾教官

座長（国士舘大学の田中 秀治 教授）、アドバイザー（消防庁救急企画室）との質疑応答

全国的には、県の教育訓練機関が主体となって講習を行う例は珍しく、本校の取組について他県の人たちの関心が非常に強かったようです（「自分の県でも消防学校で統一的な教育を行ってほしい」との多くの声が聞かれました）。

アドバイザー（消防庁）からは、「本目的（今回のシンポジウムのテーマ：知見を共にし、次へとつなぐ）を達成するために一番理想的な教育方針である」とのコメントをいただきました。

消大レポート

消防大学校 警防科(第104期) 研 修 報 告

平成30年10月18日（木）～12月６日（木）
教育日数　50日　教育時間数240時間

警防業務に関する高度の知識及び技術を専門的に修得し、教育指導者等としての資質を向上させることを目的に、年齢・役職・階級を問わず、全国各地から60名が集い、警防行政を取り巻く様々な問題に取り組むとともに、同期学生として親睦を深めました。

主査　永田 佳寛　（磐田市消防本部から派遣）

教育技法

教育の技術は様々な実験で立証されており、その成果は現場経験や職歴、勤続年数には比例せず、教育の技術を身につけた人の方がより効果的な教育ができるということを学びました。

教育を勘や経験に頼りすぎ、効果が上がらない時の原因を教育の受け手側だけに押し付けるのではなく、科学的、効率的教育の実践は、教える側、教えられる側が共に成長し、市民・県民・国民の利益にも繋がっていきます。静岡県消防学校では、この技法をもとに、厳しさ、厳格さ、愛情と情熱をもって教育にあたります。

教育＝科学

山崎 洋史 講師

消防大学校客員教授
昭和女子大学大学院
心理学専攻教授
総合教育センター長

指揮要領

各階層別の指揮訓練（小隊長・中隊長・大隊長）を実技訓練及びシミュレーション訓練を通じて段階的に繰り返し行い、指揮技術の向上を図りました。火災性状や消火戦術に関する座学、実火災体験型訓練等により的確な指揮判断の根拠を学びました。的確な指揮が効果的に消防目的を達成し、安全管理の徹底の実現に繋がります。

正確な情報の分析･整理が
有効な指揮活動に繋がる

指揮訓練（中隊指揮）

指揮シミュレーション訓練
（同時多発火災対応）

高層建物火災学生企画訓練
（大隊指揮）

安全管理

安全管理とは、危険と隣り合わせである消防業務の特異性を十分に認識した上での、業務遂行を前提とした積極的行動方策であり、人間の特性から発生するミスを分析し、事故発生のリスクを科学的に回避する技術であると学びました。座学で得られた知識を、各種実技訓練を通じて不安全行動の発生要因を確認し、その防止対策を考察しました。

何も活動しなければ事故は起こりませんが、それでは消防の責任は果たせません。「気をつけろ」だけではただの発声に終わります。個人の意識・行動から組織としての安全配慮義務にいたるまで、安全管理の奥深さと重大な責任を痛感しました。

安全管理について消防学校の教育で気をつけなければならないのは、学生が将来、目の前の状況をよく理解できないから安全管理を理由に行動しないという選択をするのではなく、何が危険であるかを的確に評価し、適切な行動するための判断材料（＝基礎）を身につけさせなければならないということです。また、事故や重大な危険が発生した際の対処法の体得についても安全管理と同様に必須であると強く感じています。

複雑多様化する災害に対し私たち消防人は常に進化し続けなければならない！

頻発する自然災害、社会構造の変化や市民ニーズの多様化に伴い、私たち消防を取り巻く環境は日々変化を続けています。私たちはその変化に対応すべく常に進化する必要があります。

そのためには、単なる前例踏襲ではなく、常に情報収集を怠らず、自らの頭で考え、理解し、改善に繋げていく姿勢・意識が不可欠であり、それをもとに人材育成及び、職員の共通認識（意識・知識・技術等）の醸成を図らなければならないと私は考えています。

この２ヶ月間で得られた研修成果を静岡県消防学校の教育を通じ、市民・県民・国民の皆様に還元していきます。

教育訓練

平成 30 年 11 月の消防団員を対象とした教育訓練は、3 日（土）～ 4 日（日）に実施した幹部教育「指揮幹部科現場指揮課程」（第 5 期）と18 日（日）に実施した特別教育「災害対策講習」（第15 回）です。

「指揮幹部科現場指揮課程」（第 5 期）には、県内 24 市町の消防団から 75 人の団員が入校し、災害現場等においてリーダーシップを発揮し、小隊・中隊の指揮を執り、自身と仲間の安全を確保しながら、任務を的確に遂行できるよう、土日の 2 日間（一泊）で座学、実科訓練等を実施しました。

ここで御案内する「災害対策講習」（第15 回）は、県内19 市町の消防団からの団員 70 人を対象に、前半は座学（消防団員としての防災知識、ドローンに関する基礎講座）、後半はドローン操作研修と救助救出訓練により、日曜日の1日講習を実施しました。

要救助者の“待つ身”を体感せよ！

救助救出訓練

小型無人機（ドローン）操作研修

消防庁から消防学校に無償貸与されているドローンを操作してみました。操作自体は意外に簡単かも…。

編集・発行/ 静岡県消防学校　〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1
☎ 054-369-1190　FAX; 054-369-1197　E-mail;fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp

★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校　検索